

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が実施した、平成30年度の「全国学力・学習状況調査」について、芦屋市全体の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 芦屋市全体の結果について

今年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科の3教科で実施されました。本市の平均は、小中学校ともに今年度も全ての教科で全国平均を上回り、市教育委員会では、「**評価できる結果**」と考えています。

質問紙調査結果では、本市児童生徒の学習習慣、生活習慣等に関して評価できる点が多いものの、いくつか課題も読み取れることから、今後も積極的に改善に取り組めます。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年及び実施状況

対象学年	在籍数(人)	受検者数(人)
小学校6年生	745	740
中学校3年生	522	504
合計	1267	1244

(3) 調査実施日 平成30年4月17日(火)

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

[国語A, 算数・数学A] (主として知識)	[国語B, 算数・数学B] (主として活用)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力などにかかわる内容など
[理科] (「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う)	

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の公表について

(1) 国・県の基本方針

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、結果の公表にあたっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

(2) 本市の基本方針

調査結果を十分に把握・検討し、今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと、説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示すこととしています。

4 本市の各教科の調査結果の概要

(1) 全国と本市の平均正答率の比較

校種	教科		国語		算数・数学		理科
			A	B	A	B	
小学6年生	全国	平均正答率	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
	芦屋市	平均正答率	79.0	61.0	74.0	63.0	66.0
		全国比較	112	112	117	122	109
		評価	良好	良好	極めて良好	極めて良好	良好
中学3年生	全国	平均正答率	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
	芦屋市	平均正答率	80.0	67.0	72.0	54.0	69.0
		全国比較	105	109	109	115	104
		評価	良好	良好	良好	極めて良好	おおむね良好

※全国比較は全国平均正答率を100とした場合の本市の数値。評価は115以上を「極めて良好」、105以上115未満を「良好」、95以上105未満を「おおむね良好」、95未満を「課題あり」としている。

(2) 各教科の領域別の概況

国語、算数・数学の領域別（知識・活用）の状況については、本市の小中学生ともに基礎的・基本的な知識・技能については、すべて全国正答率を上回っており、評価できる結果となっています。さらに、活用を問う問題Bでは小学校の算数及び中学校の数学は、全国と比較して高得点の児童・生徒が多く、「極めて良好」となっています。しかしながら、各問題の正答率は問題Aにくらべて低く、小中学校ともに記述式問題に課題が見られました。3年ぶりに実施された理科では観察・実験の結果を整理・分析した上で、考察したことや説明する問題の正答率が低くなっています。

今後、国語では、複数の条件に合わせて文章を書く活動や自分の考えを具体的に表現する機会を増やしていくこと。算数・数学では、文章や写真、図や表を読み取ることや数学的な表現を用いて説明するような活動に、一層取り組む必要があります。また、理科では、自然体験などを通じて学ぶことや、自分の考えを実験で確かめながら探究するような理科本来の楽しさを味わえるような授業が求められます。

【小学校 国語】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
国語A	4	○『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する。	83.4%	74.0%
	5	●【春休みの出来事の一部】の中で、示された部分のつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。	51.8%	35.5%
国語B	2二	●【おすすめする文章】むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く。	15.8%	13.8%
	2三	○【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する。	81.2%	70.8%

- 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができている。
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことは、全国と比較すると正答率は高いが、半数近い児童に理解できていない状況が見られた。
- 目的や内容に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く設問では、正答率は非常に低く、大きな課題としてとらえる必要がある。
- 推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを理解している。

【中学校 国語】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
国語A	3二	○ 父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する。	90.7%	82.8%
	8四②	● 「心打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く。	27.4%	22.3%
国語B	2二	○ 二人に続いてする質問を書く。	94.6%	88.3%
	3三	● 話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く。	48.4%	49.2%

- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題は、高い正答率であった。
- 「心打たれた。」の意味は96.0%の生徒が理解しているにも関わらず、主語を明らかにした、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことができたのが27.4%と低く、大きな課題としてとらえる必要がある。
- 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することは、高い割合でできている。
- 目的に応じて文章を読む際などに、情報を整理して内容を的確に捉えて書くことの苦手さが明らかになった。

【指導の改善の方向性】

- ア 主語と述語との関係については、表現するときだけではなく、文章を読むときにも強く意識できるように指導するとともに、書くことの学習とも関連を図り、自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく習慣を付けるように指導する。
- イ 推薦文では、目的に応じて推薦する事物のよさを捉え、推薦理由を明確にして書くこと必要がある。そのためには、構成を工夫したり、他のものと比較して適切な内容を取り上げ、詳しく書いたりする学習活動が必要である。
- ウ 文を書く際には、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導する。例えば、心の動きや、身の回りの様々な物事などについて具体的な内容を盛り込んだ文を書き、伝えたいことを適切に表現するための語順や語の照応について検討するなどの学習活動を取り入れていく。
- エ 作品のあらすじをまとめる際には、基本的な構成要素を捉えて整理するように指導する。自分の選んだ作品のあらすじをまとめ、互いに伝え合い内容を適切に表現することができるかどうかを確認し合うなどの学習活動が必要である。

【小学校 算数】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
算数A	2	● 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ。	57.3%	39.9%
	4(1)	○ 面積がそろっている㊸と㊹の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ。	92.0%	87.8%
	5(1)	○ 角㊺の角の大きさが、何度であるかを選ぶ。	97.0%	94.4%
算数B	2(2)	○ 全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く。	79.7%	70.5%
	3(1)	● メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く。	31.4%	20.7%
	3(2)	● 一つの事柄について表した、棒グラフと帯グラフから読み取ることができる文章を選ぶ。	31.8%	23.9%

- 小数の除法の意味について理解できるかを問う問題では、算数Aで一番正答率が低かった。
- 異なる二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解しているかを問われた問題では、全国の平均正答率を上回り、高い割合でできている。
- 相当数の児童が、 180° の角の大きさを理解できている。
- 示された考え方を解釈し、結果を表に整理することで、条件に合う時間を求める問題では、高い正解率であった。
- メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題は、全国の平均正答率を大きく上回ったが算数Bで一番正答率が低かった。
- 棒グラフと帯グラフから読み取った情報を総合的にとらえ、正しくまとめた文章を選ぶ問題は、正答率は低く、3(2)の無回答率は10.7%と最も高かった。

【中学校 数学】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	平均正答率	
			芦屋市	全国
数学A	3(2)	○ 比例式 $x : 20 = 3 : 4$ を解く。	92.4%	87.8%
	8	● 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ。	46.3%	45.5%
数学B	3(2)	○ グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める。	81.5%	77.7%
	3(3)	● A駅からの道のりが6kmの地点において、列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法について説明する。	13.9%	13.2%
	5(2)	● 通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。	17.5%	10.4%

- 簡単な比例式を解くことが、高い割合で正答できている。他に負の整数を読み取ることや、単項式同士の除法なども相当数の生徒が理解できている。
- 証明の方法についての理解とともに、証明の必要性和意味の理解が不十分である。しかし、平成27年度調査では、同様の設問の正答率は29.6%であったことから比較すると、改善が見られてはいる。
- 2つのグラフの交点のy座標が、2つの列車のすれ違いが起こる地点を表していることについては高い割合できている。
- 6kmの地点がグラフのy座標の6であったり、2つの列車の通過時刻の差がグラフのxの値の差として表れていることなど、グラフの示す意味を読み取ることには課題があり、正答率は問題A・Bを通して最も低く、さらに無回答率は、25.5%で最も高かった。
- 例で示された計算を解釈し、数学的な表現を用いて、記述式で説明することができていなかった。

【指導の改善の方向性】

- ア 図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式できるように指導するとともに、割合に当たる大きさを求める場合には、乗法が用いられ、1に当たる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるように指導する。
- イ 他教科の学習や日常生活の問題解決において、読み取った情報が適切かどうか検討し、目的やデータの種類に応じてグラフを新たに作り、複数のグラフを関連付けて考察する活動場数を数多く設ける。
- ウ 何をどのように使えばよいかといった問題解決の方法に焦点を当て、状況に応じて、表、式、グラフを適切に使って説明する場面を増やしていく。
- エ 日常的な事象を数学的な結果に置き換えて解釈できるように指導する必要がある。ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明できるような活動場数を設定する。

【小学校 理科】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	正答率	
			芦屋市	全国
理科	1(1)	○ 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ。	85.5%	82.1%
	1(2)	○鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点をもとにまとめた内容なのかを選ぶ。	82.6%	76.2%
	2(3)	● 一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。	27.6%	20.1%
	4(4)	● 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く。	42.8%	35.9%

- 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想することができる。
- 調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することが、できている。
- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果をもとに分析して考察した内容を記述する問題は、一番正答率が低かった。
- 実験結果から分かることだけを記述する問題では、半数以上の児童が正答できておらず、無回答の割合は、6.2%で最も高かった。

【中学校 理科】

○は比較的高い割合で達成されているもの ●は課題があると判断されるもの

区分	問題番号	設問の概要	正答率	
			芦屋市	全国
理科	2(2)	● 理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる。	43.3%	46.9%
	7(2)	○ 緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる。	81.1%	78.5%
	7(3)	○ 緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる。	96.2%	94.4%
	9(2)	● 部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識を活用して問題解決に向かうことができるかどうかをみる。	20.9%	19.4%

- 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できるという問題だけが、全国の平均正答率を下回る結果となった。食塩水の濃度が、食塩水の質量に対する食塩の質量であることの理解に課題が見られた。

-
- 緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘する問題や、初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用できるかを問う問題は、正答率が高かった。
 - 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題では、正答率が低く、無回答の割合が、18.3%で最も高かった。蒸発と湿度に関する知識を利用して、蒸散以外に湿度を変化させた要因を見出すことに課題があった。

【指導の改善の方向性】

- ア 実験の結果を表やグラフに整理し、考えの根拠となる事実を明確にすること、その事実と解釈の両方を整理して自分なりの解釈を表現できるように指導する。また、結果から考察したことを科学的な言葉や概念を使ってまとめる指導をする。
- イ 算数・数学の調査でも割合の問題に課題が見られたことから、特に濃度の問題に関しては、授業時間を十分確保し丁寧に指導していく。
- ウ 児童・生徒が実験を計画する際、個人やグループで考えた計画について見落としがないかをグループで検討して改善するなどの活動を取り入れる。また、問題を解決させるために様々な場面において自分の考えを表現したり、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動の時間を数多く設定する。

5 教科の学習に対する子どもの意識の変化

(単位：%)

設 問	教 科	小 学 校			中 学 校		
		H27 本市	H30 本市	H30 全国	H27 本市	H30 本市	H30 全国
勉強が好き (どちらかというとき)	国語	66.7			55.7		
	算数・数学	73.0	69.5	64.0	58.3	50.0	53.9
	理科	83.1	85.7	83.5	65.4	54.8	62.9
勉強は大切 (どちらかというとき)	国語	92.0			88.5		
	算数・数学	94.5	94.6	92.1	80.2	79.8	83.6
	理科	87.8	90.5	85.4	72.8	67.2	70.6
授業はよくわかる (どちらかというとき)	国語	86.1			72.1		
	算数・数学	83.0	87.4	83.4	72.5	72.6	71.0
	理科	88.0	90.8	89.4	65.0	61.5	70.0
授業で学習したことは 将来、役に立つ(どちら かといえば、役に立つ)	国語	88.8			77.7		
	算数・数学	90.5	90.8	90.3	67.5	69.3	72.9
	理科	75.6	78.1	72.9	57.1	51.2	55.7

※H30年度の質問紙調査では国語の該当内容について質問がなかったため記載しておりません。

今回の中学校3年生は、平成27年度調査の時、小学校6年生であったので、理科を含めた3教科を受けている。平成30年度調査では質問紙で算数・数学と理科について問うていることから、平成27年度の小学校の回答と平成30年度の中学校との回答を比較したところ「勉強が好き」と答えた生徒の割合は、**算数・数学が-23.0%**、**理科が-28.3%**となっており、特に「理科好き」の子どもが減る割合が大きくなっています。また、「授業内容がよくわかる」と答えた生徒を比較すると**算数・数学が-10.4%**、**理科が-26.5%**となり、こちらも理科でその割合が低下している。このことは、全国でも同じ傾向がみられました。

今回の結果は、小学校では観察や実験などの体験的な学習時間が多いが、中学校では、体験的な学習に加え、理論的内容の授業も増え、内容が難しくなることも要因の一つとして考えられます。

このことは、児童生徒の質問紙調査の「週1回以上、理科室で観察や実験を行った」と回答した本市の児童生徒の割合において、小学校が47.8%に対し、中学校は34.5%となったこと。さらには、本年度の中学校の意識調査で、理科について「勉強が好き」「勉強は大切」「授業で学習したことは将来、役に立つ」と答えた本市の生徒は、全国平均を下回っていることから示されています。

【指導の改善の方向性】

- ア 教科に関する調査で良好な結果を残しながらも、「勉強が好き」、「勉強が大切」、「学習したことは将来、社会で役立つ」と感じる割合が、小学校から中学生へ低下していることから、発達段階に応じた動機づけが各教科の授業で求められる。
- イ 理科では、理科を学ぶことの意味や面白さを実感できる授業づくりが求められる。知識注入型の授業に陥らず自分の考えを実験で確かめながら探究する授業を行う。
- ウ 算数・数学については、各学校にチューターが配置されていることもあり、「よくわかる」と答えた児童生徒の割合は高く、特に中学校で顕著となっている。今後も、チューターの有効的な活用により、学習に対する意欲や学力の定着が十分に進まない児童生徒に対する、きめ細かな指導を継続して行う。

6 学習や生活に対する意識・実態について

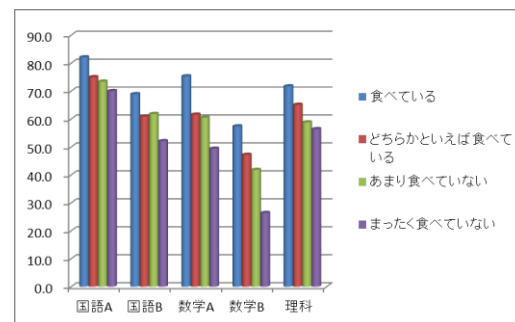
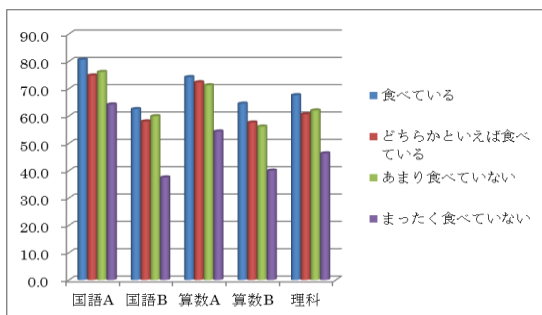
(単位：%)

No.	内 容	区分	H27	H30	
			本市	本市	全国
1	学校のきまり(規則)を守っている。	小学校	38.1	25.9	43.8
		中学校	62.3	66.7	63.4
2	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	小学校	83.7	84.9	85.9
		中学校	68.5	75.4	80.7
3	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。	小学校	59.1	54.7	54.7
		中学校	45.6	48.4	44.7
4	自分にはよいところがあると思う。	小学校	42.5	45.1	41.2
		中学校	24.8	37.1	33.7
5	将来の夢や目標を持っている。	小学校	71.1	71.6	68.2
		中学校	48.1	47.0	45.3

- ◆ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合が、小学生、中学生ともに全国と比較して低くなっています。この結果を課題とし、学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実に取り組むとともに、「芦屋市いじめ防止基本方針」、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組をさらに充実させる必要があります。
- ◆ 全国と同様、本市の児童生徒も、自尊感情に関する設問で、肯定的なとらえ方が低いと言えます。運動会、合唱コンクール、小学校の自然学校、中学校のトライやる・ウィーク等さまざまな行事や体験活動を通して、挑戦し、やりきった達成感を味あわせるとともに、自信を持たせることが大切です。そのためにも、達成したことをほめたり、評価したりすることで家庭・地域・学校園が、子どもたちの自主性を尊重しながら、一緒になって子どもたちを育てるという機運を高めていくことが大切です。

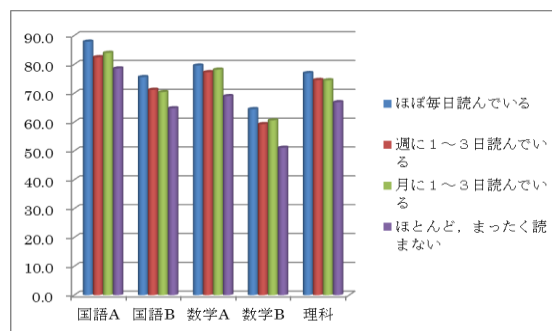
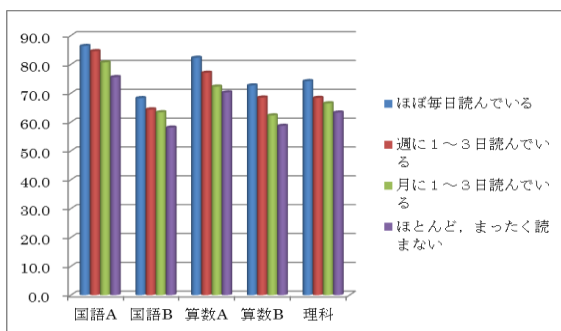
7 生活習慣や学習環境と教科に関する調査結果の関係

(1) 「朝食を毎日食べている」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係
 小学校 中学校



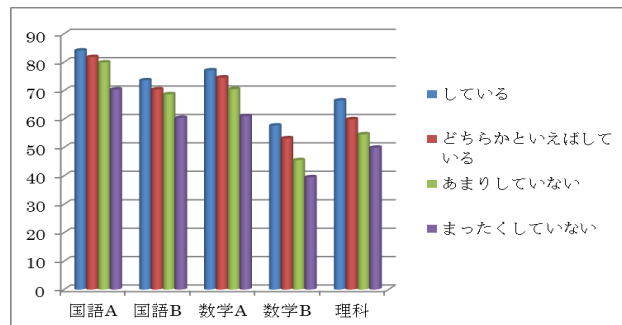
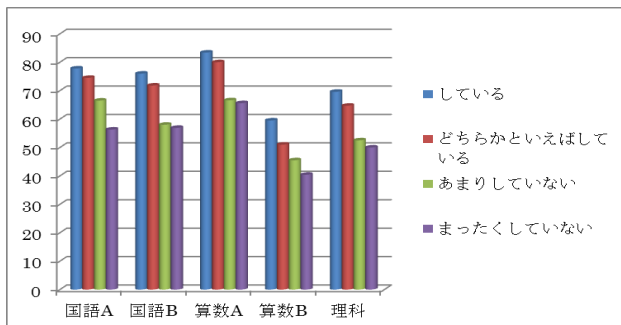
◆ 本市の児童生徒の朝食摂取率は小・中学校ともに全国平均を下回っています。全教科で、平均正答率との相関関係が顕著です。しっかり朝食をとることは、規則正しい生活習慣、健康な体づくりにもつながってきますし、学力向上に向けてたいへん効果的であると考えられます。

(2) 「新聞を読んでいますか」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係
 小学校 中学校



◆ 本市において、新聞をほぼ毎日読んでいると回答した児童生徒は、小中学校ともに全国平均を上回っています。また、全ての教科にわたって全体の平均正答率を全国平均より大きく上回っています。特に活用を問うB問題でその差が顕著となっています。

(3) 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率との関係
 小学校 中学校



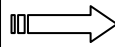
◆ 本市の「家で、自分で計画を立てて勉強している（どちらかといえばしている）」と回答した割合は小学校は全国平均を上回っていますが、中学校では全国平均を下回っています。計画的な学習をしている児童生徒ほど全教科で、正答率が高くなっており、家庭学習の習慣化が、学力向上を図るうえで非常に有効であることがわかります。

8 教育委員会の取組について

教育委員会では、芦屋市教育振興基本計画に基づき、児童生徒の知・徳・体の調和した「人間力」の育成を図る中で、学力向上のために本調査の結果を活用し、次のような取組を進め、学校の教育活動を支援していきます。

(1) 学習指導・授業研究の充実

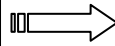
- 学力向上パワーアッププラン、学力向上研究支援プランの充実
- 複数指導や少人数指導の推進
- チューター（学習指導員）の配置
- 理科支援員の配置（小学校）
- 地域人材や学生ボランティアの活用
- タブレット等、ICT 機器の活用研究の推進
- 小中学校間の授業交流の推進



- 児童生徒が体験を通して学べる学習環境の整備
- 児童生徒一人一人の個性や能力に応じた指導の充実
- 児童生徒の学習意欲や興味・関心を引き出す授業の研究
- 教職員の資質や授業力の向上を目指した研修の充実
- 小中学校間の円滑な接続や系統的な教科指導についての研究の推進

(2) 生徒指導・進路指導の充実

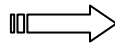
- 基本的な生活習慣の定着を図る指導の充実
- 道徳教育・人権教育の充実
- キャリア教育の充実



- 児童生徒の自己肯定感，規範意識を醸成する教育の推進
- 夢や目標をもって，自らの未来を切り拓く力をはぐくむ進路指導の推進

(3) 読書活動の推進

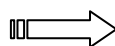
- 読書月間の設定・啓発
- 学校図書館の環境整備・利用啓発
- 読書スタンプラリーの実施
- 「子どもに読ませたい図書リスト 400選」「おはなしノート」「読書ノート」の配布・活用
- 読書活動推進校の指定



- 図書ボランティアや市立図書館と連携した読書活動の推進
- 朝の読書タイムの充実
- 学校図書館の授業での活用促進
- 児童生徒の学校図書館の本の利用冊数の増加

(4) 家庭への啓発・連携の強化

- 保護者，地域への取組の発信



- 家庭との連携による児童生徒の生活習慣，学習習慣の向上

9 家庭・地域での取組について

- ◆ 約束ごとはきちんと守らせて、規則正しい生活が送れるようにしましょう。
- ◆ 学校での出来事や社会で起こっていることについて、親子で話をする機会を増やしましょう。
- ◆ 親子で読書に取り組む時間をとりましょう。
- ◆ 子どものよいところや頑張ったところを積極的に認め、評価しましょう。
- ◆ 子どもが地域の中で活動し、活躍できる機会を増やしましょう。
- ◆ 親子でインターネットやスマートフォン、SNS等に依存しないような環境を作りましょう。

10 児童生徒の生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果（全項目）

【小・中共通項目】

※小・中学校の（ ）の数値は、4つの選択肢（1：当てはまる 2：どちらかという当てはまる
3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない）がある質問で、1と回答した割合

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
1	自分には、良いところがあると思う・どちらかといえば、あると思う	芦屋市	84.0 (45.1)	80.8 (37.1)
		全国	84.0 (41.2)	78.8 (33.7)
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う・どちらかといえば、認めてくれていると思う	芦屋市	81.9 (35.0)	82.9 (32.3)
		全国	85.3 (42.5)	82.2 (32.5)
3	将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば、持っている	芦屋市	85.1 (71.6)	72.6 (47.0)
		全国	85.1 (68.2)	72.4 (45.3)
4	学校の決まりを守っている・どちらかといえば、守っている	芦屋市	82.8 (25.9)	94.7 (66.7)
		全国	89.5 (43.8)	95.1 (63.4)
5	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う・どちらかといえば、いけないことだと思う	芦屋市	96.7 (84.9)	93.9 (75.4)
		全国	96.8 (85.9)	95.5 (80.7)
6	人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば、なりたと思う	芦屋市	95.4 (76.6)	92.8 (69.8)
		全国	95.2 (74.2)	94.9 (70.7)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
7	朝食を毎日食べている・どちらかといえば、食べている	芦屋市	93.2 (82.3)	90.5 (79.6)
		全国	94.5 (84.8)	91.9 (79.7)
8	毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえば、している	芦屋市	74.8 (40.9)	74.0 (38.1)
		全国	77.0 (41.4)	74.2 (35.6)
9	毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば、している	芦屋市	88.4 (59.1)	90.4 (56.7)
		全国	88.8 (59.9)	90.3 (55.9)
10	家で、自分で計画を立てて勉強している・どちらかといえば、している	芦屋市	72.0 (36.6)	47.8 (12.9)
		全国	67.6 (30.7)	52.1 (16.6)
11	家で、学校の宿題をしている・どちらかといえば、している	芦屋市	95.5 (85.4)	91.8 (70.0)
		全国	97.1 (87.9)	91.6 (68.5)
12	家で、学校の授業の予習・復習をしている・どちらかといえば、している	芦屋市	45.5 (17.8)	43.5 (13.3)
		全国	62.6 (27.7)	55.2 (18.2)
13	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している・どちらかといえば、している	芦屋市	60.4 (33.8)	70.8 (38.1)
		全国	69.9 (37.5)	71.3 (35.1)
14	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり3時間以上、勉強をする（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	芦屋市	42.0	14.9
		全国	12.5	10.5
15	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日1時間以上、読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	芦屋市	22.1	11.5
		全国	19.3	14.8
16	放課後は、学習塾など学校や家以外の場所で勉強をしている	芦屋市	60.9	57.1
		全国	32.2	42.1
17	週末は、学習塾など学校や家以外の場所で勉強をしている	芦屋市	42.6	37.9
		全国	16.1	23.4

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
18	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている・どちらかといえば、している	芦屋市	80.8 (54.7)	78.4 (48.4)
		全国	80.5 (52.8)	76.0 (44.7)
19	前の学年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う・どちらかといえば、あったと思う	芦屋市	73.1 (40.8)	68.6 (36.3)
		全国	74.4 (40.1)	68.7 (31.6)
20	今住んでいる地域の行事に参加している・どちらかといえば、参加している	芦屋市	49.3 (21.9)	35.1 (12.3)
		全国	62.7 (35.9)	45.6 (18.6)
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある・どちらかといえば、関心がある	芦屋市	68.8 (34.1)	60.3 (21.0)
		全国	63.8 (26.8)	59.3 (20.0)
22	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある・どちらかといえば、考えることがある	芦屋市	51.2 (18.9)	36.7 (9.7)
		全国	49.9 (17.3)	38.7 (10.6)
23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	芦屋市	58.8	30.4
		全国	36.1	51.8
24	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある・時々ある	芦屋市	40.5 (17.7)	22 (8.1)
		全国	41.6 (18.1)	25.5 (9.2)
25	新聞をほぼ毎日読んでいる	芦屋市	14.3	6.9
		全国	7.4	4.9
26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）・時々見る	芦屋市	82.8 (52.4)	86.9 (51.0)
		全国	86.2 (57.3)	86.6 (52.4)
27	算数、数学の勉強は好きである・どちらかといえば、好きである	芦屋市	69.5 (41.8)	50.0 (25.0)
		全国	64.0 (33.9)	53.9 (25.7)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
28	算数、数学の勉強は大切だと思う・どちらかといえば、大切だと思う	芦屋市	94.6 (74.5)	79.8 (39.3)
		全国	92.1 (67.3)	83.6 (45.9)
29	算数、数学の授業の内容はよく分かる・どちらかといえば分かる	芦屋市	87.4 (53.5)	72.6 (33.3)
		全国	83.4 (42.1)	71.0 (28.2)
30	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う・どちらかといえば、思う 数学ができるようになりたいと思う・どちらかといえば、思う	芦屋市	75.4 (50.4)	91.7 (76.2)
		全国	74.3 (44.4)	92.5 (73.4)
31	算数、数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えている（どちらかといえば考えている）	芦屋市	81.1 (47.7)	67.1 (27.2)
		全国	78.4 (39.7)	70.3 (29.1)
32	算数、数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている・どちらかといえば、考えている	芦屋市	64.4 (28.9)	31.5 (11.9)
		全国	64.4 (28.5)	38.7 (12.0)
33	算数、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う・どちらかといえば、役に立つと思う	芦屋市	90.8 (67.3)	69.3 (29.4)
		全国	90.3 (65.5)	72.9 (34.9)
34	算数、数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている・どちらかといえば、考えている	芦屋市	81.9 (55.0)	67.6 (32.7)
		全国	78.5 (44.2)	69.2 (33.4)
35	算数、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしている・どちらかといえば、している	芦屋市	81.2 (48.9)	63.7 (30.6)
		全国	80.4 (43.7)	70.4 (30.9)
36	算数、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている・どちらかといえば、書いている	芦屋市	84.8 (58.6)	80.7 (48.4)
		全国	85.8 (56.8)	80.6 (45.6)
37	今回の算数、数学の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（説明する） 問題で、最後まで解答を書こうと努力した	芦屋市	79.7	56.9
		全国	70.6	55.5

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
38	理科の勉強は好きである・どちらかといえば、好きである	芦屋市	85.7 (58.5)	54.8 (23.6)
		全国	83.5 (52.6)	62.9 (30.0)
39	理科の勉強は大切だと思う・どちらかといえば、思う	芦屋市	90.5 (66.4)	67.2 (33.1)
		全国	84.5 (55.0)	70.6 (33.2)
40	理科の授業の内容はよく分かる・どちらかといえば、当てはまる	芦屋市	90.8 (62.4)	61.5 (22.4)
		全国	89.4 (55.9)	70.0 (26.6)
41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある・どちらかといえば、したことがある	芦屋市	89.3 (71.2)	80.5 (57.7)
		全国	87.0 (66.6)	77.6 (49.6)
42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている・どちらかといえば、考えている	芦屋市	69.6 (36.5)	36.5 (15.1)
		全国	64.7 (31.1)	45.4 (16.8)
43	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う・どちらかといえば、役に立つと思う	芦屋市	78.1 (47.4)	51.2 (22.2)
		全国	72.9 (39.9)	55.7 (21.9)
44	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う・どちらかといえば、就きたいと思う	芦屋市	33.1 (18.2)	17.8 (7.9)
		全国	26.1 (12.5)	22.2 (8.5)
45	理科の授業で、自分の考え（や考察）をまわりの人に説明したり、発表したりしている・どちらかといえば、している	芦屋市	55.5 (25.9)	35.1 (8.9)
		全国	54.5 (21.8)	41.4 (13.1)
46	理科の授業では、週1回以上、理科室で観察や実験を行っている	芦屋市	47.8	34.5
		全国	41.2	40.7
47	観察や実験を行うことが好きである・どちらかといえば、好きである	芦屋市	90.0 (72.7)	83.9 (51.4)
		全国	89.8 (68.8)	82.1 (52.8)

No.	質問事項	区分	小学校	中学校
48	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている・どちらかといえば、立てている	芦屋市	77.1 (40.7)	49.4 (12.3)
		全国	75.2 (37.2)	58.5 (19.4)
49	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている・どちらかといえば、考えている	芦屋市	85.3 (50.7)	69.1 (27.4)
		全国	81.8 (43.6)	72.3 (31.7)
50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている・どちらかといえば、考えている	芦屋市	65.1 (30.0)	50.0 (14.3)
		全国	68.1 (29.4)	59.0 (20.7)
51	今回の理科の問題について、解答を文章で書く問題は、すべて最後まで書こうと努力した	芦屋市	82.8	64.5
		全国	77.3	62.8
52 (55)	前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う・どちらかといえば、取り組んでいたと思う	芦屋市	78.8 (31.1)	70.6 (20.4)
		全国	76.7 (29.1)	73.8 (26.3)
53 (56)	前の学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表していたと思う・どちらかといえば、していたと思う	芦屋市	61.1 (26.8)	48.8 (13.9)
		全国	61.0 (23.5)	53.8 (16.6)
54 (57)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う・どちらかといえば、できていると思う	芦屋市	78.2 (37.7)	74.4 (31.5)
		全国	77.7 (34.7)	76.3 (32.4)
55 (58)	調査問題の解答時間は十分だった（国語A）	芦屋市	56.9	69.2
		全国	44.1	56.4
56 (59)	調査問題の解答時間は十分だった（国語B）	芦屋市	52.2	51.0
		全国	40.3	44.9
57 (60)	調査問題の解答時間は十分だった（算数A，数学A）	芦屋市	57.0	68.1
		全国	45.1	58.3
58 (61)	調査問題の解答時間は十分だった（算数B，数学B）	芦屋市	53.5	48.8
		全国	37.1	40.5
59 (62)	調査問題の解答時間は十分だった（理科）	芦屋市	77.0	71.6
		全国	69.4	64.3

【小学校項目】

No.	質問事項	区分	小学校
52	5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った・どちらかといえば、思った	芦屋市	85.9 (56.4)
		全国	87.5 (52.5)
53	5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができた・どちらかといえば、できた	芦屋市	76.8 (30.0)
		全国	75.1 (30.0)
54	今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思う・どちらかといえば、思う	芦屋市	86.3 (48.1)
		全国	82.0 (42.7)

11 その他

全県、全国の調査結果もそれぞれのホームページでご覧になれます。

○兵庫県教育委員会 義務教育課

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/gakuryokutyousa/gakuryoku.htm>

○国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/index.html>